

# 桐生繊維業界の実態

昭和56年1月～12月

桐生市繊維振興協会

昭和56年12月末現在

## 桐生繊維業界の概況

1. 加盟団体数	22団体（桐生商工会議所繊維部会含）
2. 産地収入	（単位万円）（昨年比較）
(1) 生産高	453億0,816（78.9%）
(2) 加工収入高	343億2,239（126.4%）
(3) 販売高	314億5,702（96.9%）
合        計	1,110億8,757（94.9%）
3. 総組合員数（事業所）	1,803社
4. 総従業員数（家族従業員含）	11,268人 （男4,599人　女6,669人）
5. 一事業所当り従業員数	6.2人
6. 一事業所当り生産販売加工高	6,161万円
7. その他参考	（単位万円）（比較）
51年1月～12月産地収入	844億4,632（100）
52年1月～12月　　”	911億4,624（108）
54年1月～12月　　”	1,078億1,166（128）
55年1月～12月　　”	1,170億6,380（139）

### 1. 組合員数及び従業員数

所属団体	組合員数 件	従業員数					従業員 平均年齢
		従業員		家族従業員		計 人	
		男人	女人	男人	女人		
桐生内地織物(協)	394	796	1,260	177	191	2,424	45
桐生織物(協)	738	378	431	657	973	2,439	46
桐生織物商業(協)	10	41	22	0	0	63	36
桐生織物産地元売(協)	32	110	46	13	23	192	43
両毛輸出織物整染(工)	28	460	240	0	0	700	42
桐生染色(協)	46	239	48	33	20	340	45
桐生繊維製品(協)	83	350	1,470	50	30	1,900	28
桐生服地(協)	(11)	(110)	(155)	(8)	(5)	(278)	(44)
桐生系商組合	28	40	14	8	5	67	-
東日本編レース(工)	28	22	50	30	26	128	45
桐生撚糸(工)	76	57	91	74	78	300	46
桐生婦人子供服製造(協)	10	50	170	30	30	280	30
両毛輸出スカーフ(協)	10	5	3	11	20	39	-
桐生織物整経(協)	104	6	41	124	126	297	53
桐生意匠(協)	53	15	1	21	17	54	36
桐生紋紙(協)	51	37	3	54	41	135	-
東毛ジャカード刺繍(協)	20	4	15	14	17	50	-
桐生刺繍商工業(協)	72	345	750	60	115	1,270	39
桐生金銀糸(協)	13	30	10	0	8	48	39
桐生織物買継商友会	25	15	4	24	25	68	42
群馬県綿スフ織物(工)	2	219	255	0	0	474	36
計	1,803	3,219	4,924	1,380	1,745	11,268	-

注 (1) 桐生服地(協)の数字は、他の組合と重複するため計から除く。

(2) 桐生系商組合の場合、組合員28社中8社の計です。

2. 生産・加工高及び受注（出荷）先区分（工業部門）

単位 万円

所属団体	生産高	加工高	計	昨 年 比 較	県 内	県 外
桐生内地織物(協)	1,091,455	55,656	1,147,111	95%	0	100%
桐生織物(協)	1,601,939	-	1,601,939	112	-	-
尚毛輸出織物整染(工)	-	461,398	461,398	95	32	68
桐生染色(協)	-	153,100	153,100	75	65	35
桐生繊維製品(協)	110,000	1,500,000	1,610,000	87	10	90
桐生服地(協)	(350,000)	-	(350,000)	(100)	15	85
東日本編レース(工)	197,400	4,450	201,850	104	100	0
桐生撚糸(工)	-	88,158	88,158	98	70	30
桐生婦人子供服製造(協)	165,000	135,000	300,000	100	0	100
桐生織物整経(協)	-	34,477	34,477	77	-	-
桐生意匠(協)	28,958	-	28,958	93	72	28
桐生紋紙(協)	43,188	-	43,188	88	80	20
東毛ジャカード刺繍(協)	35,000	-	35,000	125	0	100
桐生刺繍商工業(協)	700,000	1,000,000	1,700,000	87	100	0
尚毛輸出スカーフ(協)	85,800	-	85,800	229	0	100
群馬県綿スフ織物(工)	472,076	-	472,076	96	0	100
計	4,530,816	3,432,239	7,963,055	94	-	-

注. 桐生服地(協)の数字は他の組合と重複するため計から除く。

### 3. 販売高及び出荷先区分（商業部門）

単位 万円

所属団体	販売高	昨 年 比 較	桐生市内	県内	県外
桐生織物産地元売(協)	1,021,446	94 <sup>%</sup>	0	0	100 <sup>%</sup>
桐生織物商業(協)	1,007,589	150	5	0	95
桐生系商組合	652,167	—	80	1	19
桐生金銀系(協)	230,000	105	87	8	5
桐生織物買継商友会	234,500	85	0	0	100
計	3,145,702	97	34.4	1.8	63.8

注. 桐生系商組合は組合数28社中8社分の数字です。

### 4. 内需向、輸出向区分

単位 万円

所属団体	内 需 向		輸 出 向		計
	金 額	割 合	金 額	割 合	
桐 生 織 物 (協)	809,694	51 <sup>%</sup>	792,246	49 <sup>%</sup>	1,601,940
桐 生 染 色 (協)	91,860	60	61,240	40	153,100
桐 生 織 物 商 業 (協)	209,505	21	798,084	79	1,007,589
桐 生 織 維 製 品 (協)	1,561,600	96	48,400	4	1,610,000
桐 生 意 匠 (協)	25,027	86	3,931	14	28,958
桐 生 紋 紙 (協)	37,860	88	5,328	12	43,188
桐 生 金 銀 系 (協)	85,000	37	145,000	63	230,000
桐 生 織 物 整 経 (協)	11,227	33	23,250	67	34,477

5. 各団体の取扱品目

団体名	品目 割合	品 目				
		割 合	割 合	割 合	割 合	割 合
桐生内地織物(協)		帯 地	着 尺	染加工品	広 巾	
		65%	11%	5%	19%	
桐生織物(協)		内需向 婦人服地	輸出向 婦人服地	内需向 インテリア資材	輸出向 インテリア資材	そ の 他
		38	20	21	10	11
桐生織物商業(協)		化合織織物	化合織編物	二次製品	そ の 他	
		68	10	12	10	
桐生織物産地元売(協)		着 尺	帯 地	染加工品	広 巾	そ の 他
		25	55	7	2	11
両毛輸出織物整染(工)		絹 織 物	人絹織物	合織織物	ニ ッ ト	
		2	3	40	55	
桐生染色(協)		レーヨン	合 織	絹	綿、ウール等	
		38	32	13	17	
桐生繊維製品(協)		ブラウス	ワンピース	コ ー ト	そ の 他	
		60	10	5	25	
桐生服地(協)		婦人服地	インテリア資材			
		90	10			
桐生糸商組合		生 糸	化 合 織	綿、スフ	そ の 他	
		42	37	3	18	
東日本編レース(工)		カーテンレース	衣料レース	雑 貨		
		70	20	10		

注. 桐生糸商組合は組合員28社中8社分の数字です。

桐生燃糸(工)	絹燃糸	人絹燃糸	合繊燃糸		
	20%	50%	30%		
桐生婦人子供服製造(協)	婦人服	子供服			
	80	20			
両毛輸出スカーフ(協)	無地 スカーフ類	メタル スカーフ			
	50	50			
桐生織物整経(協)	整 経				
	100				
桐生意匠(協)	帯	洋 反	インテリア	夜 具	着尺、その他
	22	11	18	16	33
桐生紋紙(協)	紋 紙				
	100				
東毛ジャカード刺繍(協)	ワッペン	ハンカチーフ	そ の 他		
	90	5	5		
桐生刺繍商工業(協)	婚礼衣裳	婚礼衣裳加工	ブラウス	ハンカチ	雑 貨
	41	18	21	6	14
桐生金銀系(協)	金 銀 系	関 連 製 品			
	87	13			
桐生織物買継商友会	帯 地	着 尺	染加工品	二次製品	広巾服地
	72	11	7	7	3
群馬県綿スフ織物(工)	硝子繊維	衛生材料			
	22	78			

6. 生産加工部門の現有設備状況

所属団体	設備名	数量	所属団体	設備名	数量
桐生内地織物(協)	広巾織機	293 <sup>台</sup>	桐生織物整経(協)	整経機	133 <sup>台</sup>
	並巾 "	2,275		糸繰機	8,128
	小巾 "	565		計	8,261
	手足 "	26	桐生意匠(協)	拡大機	51
	計	3,159		コピー機	9
桐生織物(協)	超自動織機スルーザー	90		コンピューター	2
	" レピア	286		その他	6
	自動及び普通織機	3,435	計	68	
	計	3,811	桐生紋紙(協)	ピアノマシン	188
尚毛輸出織物 整染(工)	整理機	200		裁断機	50
	染色機	170		編機	70
	計	370		ワンパンチ	34
桐生染色(協)	染色機(常圧噴射式)	137		その他	20
	" (高圧 " )	46	計	362	
	" (汎用)	43	桐生刺繡 商工業(協)	横振マシン	2,000
	チーズ及チーク	69		ジャカードマシン	2,200
	計	295		ハンドル特殊マシン	
縫製マシン	2,000	計		4,200	
桐生繊維製品(協)	計	2,000	群馬県綿スフ 織物(工)	広巾普通織機	353
桐生服地(協)	超自動織機	65		小巾 "	303
	自動 "	42		計	656
	普通 "	165	桐生燃糸(工)	イタリー式燃糸機	260
	手織機	12		リング式 "	4
	計	284		アップワインダー	6
東日本編レース(工)	ラッセル機	202		その他	121
	計	202	計	391	



7. 最近の推移（56年10月～57年2月）

所属団体	受注、引合の状況				販売（加工）単価の状況			
	増	変わらず	下降	前年対比	上昇	変わらず	下降	前年対比
桐生内地織物(協)		○		98 <sup>%</sup>		○		100 <sup>%</sup>
桐生織物(協)		○		100		○		100
桐生織物商業(協)		○		100		○		100
桐生織物産地元売(協)		○		100		○		100
両毛輸出織物整染(工)		○		100		○		100
桐生染色(協)			○	90		○		100
桐生繊維製品(協)		○		100		○		100
桐生服地(協)		○		100		○		100
桐生系商組合			○	90			○	95
東日本編レース(工)			○	80			○	80
桐生燃糸(工)			○	85			○	85
桐生婦人子供服製造(協)		○		100		○		100
両毛輸出スカーフ(協)		○		100		○		100
桐生織物整経(協)		○		100		○		100
桐生意匠(協)			○	93		○		100
桐生紋紙(協)			○	95		○		100
東毛ジャガード刺繍(協)	○			115	○			120
桐生刺繍商工業(協)		○		100		○		100
桐生金銀糸(協)	○			105	○			105
桐生織物買継商友会			○	85		○		100
群馬県綿スフ織物(工)		○		100		○		100
計 (件数)	2	12	7	-	2	16	3	-

## 8. 昭和56年(1月～12月)の状況(事業概要)及び今後の課題

### (1) 桐生内地織物協同組合

#### ◎商品・消費者ニーズの変化について

最近の消費者ニーズは多様化の傾向にあり、特に個性化を強めている。和装については染ものが大勢を占めており、フォーマル製品が主流となっている。

桐生製品は技術的に秀れており、新味のあるものは人気を得ている状況にあるので、今後は販売面の新しい企画性を工夫することが肝要である。

#### ○状況、事業概要

業界全般に地盤沈下が伝えられる内地ものだが、スタート時に豪雪に見まわれ、5月には異常気象と悪条件が続いた。以降7月まで秋冬物の仮需期に入り、組合でも求評会を展開したが、問屋側は慎重小口買いが中心で取引は低調に推移した。

そして9月以降の実需期を迎えても予想された景気の伸び足が鈍く、消費者の購買意欲は低迷した。こうした中で、桐生内地織物協組では、昨年並みの数字に追いついた事は地盤沈下の激しい業界の中で健闘したと言える。

帯地は、数量的に生産をおさえた中でも、質的に良い商品を作ろうという傾向が出た。七五三用祝帯は桐生独自の強味を持ち袋帯、袋なごや帯、小袋帯は攻めの商いで善処した。

着尺はフォーマル系を中心に、桐生独自の織を主体として付加価値を高めた為、数量的には前年に比して減少が目立ったが、金額では0.6%の減にとどめることが出来た。染加工品では、甚平羽織、のれん、祭半てんなど、人気を得て、点数で8%、金額1.6%と、それぞれ増を見せた。

広巾では和装以外のオリジナル製品を打ち出そうということで、和装小物、和装の生地を利用したインテリア用品など順調な展開を見せた。

#### ○今後の課題

前述のような状況下で今後、桐生内地織協としては、消費者ニーズがますます多様化を見せている現況に鑑み、多品種、少量生産を堅持しつつ量より質への転換を考え、オリジナル商品で勝負して行く方針を貫いて行く。そして「物を売る技術を

生産者も持たなければ」という点を深く考慮し、①従来からの殿様商売からの完全な脱却、②多彩な技術を生かした、トータル産地「桐生」を全国に浸透させるための動きを、この一年の課題としてとりあげていく。

業界の将来に向っての重要な課題は、①取引流通問題の見直し改善、②労働力確保の問題、③産地及び企業体質の強化策等である。業界の全知を集め関係機関各位のご理解を得て、この対策解決に最善を尽くさねばならない。

## (2) 桐生織物協同組合

### ○商品、消費者ニーズの変化について

- ・輸出向けは、商品の多様化が望まれている。
- ・内需向けの主力は婦人服地とインテリアであるが、いずれも受注から納品までのサイクルは短くなっている。
- ・婦人服地は天然繊維ものが要求され、デシンからツイード調に変わり、金糸使いが全盛となった。
- ・インテリアは住宅関連の低迷で、全国的不況の中にファンシー繊維活用の高級指向で飛行機、自動車、列車のシートにまで用途を拡大、利巾は少ないが堅実な歩みを続けている。

### ○状況、事業概要

昭和56年は前年からの円高が続き、輸出向けに不安があったが、リビア向けのドリーム（金糸入りウーリーテロン交織紋朱子）の大量受注が幸いし、業界は円高の中に活路を見出し輸出向けは増大し広巾織機のスペースを埋めた。このため内需向け婦人服地の分野は専業者の独走という形で安定した。

56年一杯で概ね完了のドリーム契約の問題とからんで、いち早く悲観論が飛び出し、アクリルサンドなどは、11月に至って10%～15%値下りしたが、総体的に崩れを見せず56年は輸出向け79億2,245万円余、内需向け80億9,693万円余を獲得した。

また組合の共販事業であるネクタイは着実に歩みを続け組合の運営に多大に寄与している。

### ○今後の課題

①輸出振興は、新商品分野の開拓が急務、輸出、内需、車の両輪としての業界としてはまず輸出を更に伸ばす必要がある。その比率は60対40が理想である。

輸出を伸ばすには多品種、多繊維使いの産地特徴を活かして商品分野の開拓を急がねばならぬ。また、特定品種への集中生産を避け、同一品種の適量生産を実行、過当競争防止、協力工場育成のための適正工賃制度の強化が必要である。

### ②内需向け織物の振興

桐生の内需向け婦人服地は、高級なファッション商品でなければならないので生産過剰、事業所の乱立を防止することが必要であり、そのために広巾織機をより多く輸出で稼働させなければならない。インテリアは地味ながら堅調だが、総体的に生地販売から完成品商品（例えば雑貨類）を開拓することである。

### ③労務対策

若年労働力の導入と協力工場の後継者の育成が急務である。

いずれも業界のよりよき環境づくりにあり業界の総力を挙げて産地振興することにより道が開ける。

## (3) 桐生織物産地元売協同組合

### ○商品、消費者ニーズの変化について

全国の和装業界全般に、先染品、後染品共に着物の需要は減ってきている。高級品嗜好として55年まで比較的安定した売行きを示してきたと思える大島紬、村山大島紬、結城紬等の産地も56年度に入って売行きが鈍り、減産に入ったと言われる。十日町織物も後染物に重点生産されてきたが15%の減産となった。当産地はその点帯地の生産に安定がみられたせいか、ほぼ横ばい状態であった。しかしこれからはいろいろな販売路線の中で消費者のニーズに合った商品づくり、価格づくりが必要である。

### ○状況、事業概要

和装業界は総じて減産となり、和装雑貨の産地が僅かに上昇してきたようであった。当組合の取扱いが組合員の企業努力によって1月から9月までは横ばい状態で

あったが、10月以降売上が伸びず総体的には93.8%と6%ダウンしてしまった。

#### ○今後の課題

消費者嗜好のニーズに合せての商品づくりは当然必要であるが、それ以上に消費者に対する販売技術の方法、努力が重点的になるのではないだろうか。小売段階といても、百貨店、呉服専門店、大販店ナショナルチェーン、着付教室、ブック販売（カタログ販売）、通信販売等、多彩であり、それぞれ、向き向きに対する販売の方法も変わってきている。それに対応した商品構成との時代ともいえるので、産地の組織も複雑なものになってくると考えられる。又、これからの問題点は交際課税の強化にみられるような税の方向や、金融面に対しても適切な指導を計り組合員の健全化を図っていききたい。

#### (4) 桐生染色協同組合

##### ○状況

染色業界にとって原動力である重油問題に振り回されての1カ年であった。景気回復の足取りも依然と重く、中小企業の業況判断も厳しい見方をする企業が多い中で、染色業界も多分にもれず本年が正念場となろう。

##### ○今後の課題

染色業界は中小企業を中心とした業界であるが、下請的な地位に甘んずることなく、染色という、繊維界の基礎となる生産と流通に携わっているという重要な立場を再認識して、染色加工の適正な価格を出して行かないと染色業界全体の地位の低下と共に死活につながることになる。

今後は何としても業界全体の強い姿勢、加工料金の浮上に根強い努力を進めて材料高の加工安という二重の苦しみを打破しなければならない。

#### (5) 桐生繊維製品協同組合

##### ○商品、消費者ニーズの変化について

内需の低迷における消費不況とか、買わない消費者と言われている様に、商品の

価値観をよく考えた選び方をして来ております。例えば、従来の刺繍を施した物、プリント柄の変化だけでは売れず、縫製技術そのものが原点指向の中で研究され、優れてなければ市場の競合には勝てない状況である。

#### ○状況、事業概要

産地の生産体制からして、春夏物が主である前半は、やや順調に推移した。しかし後半から購買不振により流通段階での発注が極端に慎重型になって来た為、生産者にとっては非常にきびしい環境下におかれ、また、技術面と商品の企画提言とが相俟って、流通のきびしい選別の内で対応を余儀なくされておる現況で、企業の高低の差が益々ついて来ている。

#### ○今後の課題

##### ・取引面の対応改善対策

大手アパレルメーカーの販売シェアは益々拡大されている現状の中で産地の生産者は運命共同体的なしかもアイテム上トータル商品が生み出せる生産グループを確立し対応して行かねばならない。又、中小のアパレルに対しては、逆選別して取引上の基盤を確固たるものとすべき時である。

##### ・生産の仕組改善対策

今までの下請、内職を含めたコストを主とした経営ではなく、生産企業としての体制を築いて行くと同時に人と設備のバランスを考え、従来の技能と合せ、真の技術開発を産地全体で知恵をしぼり出して行かなければならない。他産業の先端技術に負けないファッションアパレルのノウハウが企業伸展に役立つことである。

#### (6) 桐生服地協同組合

#### ○状況、事業概要

桐生の技術が見直された年である。「減量もの」はピーク時から3割方減少した。北陸へ逃げた感じであり、北陸とのコスト競争をさけ、小廻りのきく産地体質を生かし、流行を取り入れ、関連業界を含めて機動力を発揮していく。57年の秋から「バロック調」が主流とみられるので開発に入っているが、メイン商品に育てたい。

組合事業としては、2月労務管理講習会、3月'81桐生服地求評研究会、8月繊維製品組合との研究会、10月監督署との指導座談会、11月三菱アセテートによる研究会（アセテート系の物性面の研修）等のほかに市総合展出品、業界親睦行事を行った。

青年会が群馬県中小企業団体青年協議会へ加入し補助事業として浜松産地の研修会を実施した。

## (7) 桐生糸商組合

### ○商品、消費者ニーズの変化について

原料系の需要は特に変化はないが、和装関係の糸消費は低下している。若年層のトレーナー等の流行により、綿糸の太番手使多くタイトである。

### ○状況、事業概要

一般的に不活発で糸消費も低滞し、僅かに輸出によって息をついている状態で、内需は実に良くないが、輸出も為替の不安要因が大きく、特に当地区の輸出先である中近東が原油の値下りにより外貨不足となり、受渡不調で今後も多くは望めない。

### ○今後の課題

少量多品種化は益々進むとみられるので、これに合せて撚加工、染色加工等に力を入れて行きたい。

## (8) 東日本編レース工業組合

### ○状況、事業概要

住宅産業の不振や、政府の政策に副った抑制などによって当業界も大きな打撃を蒙った。先ず当業界の代表的な製品であるカーテンレースは、昨年度すなわち昭和55年度を大きく下回った。カーテンレースには、フレンチ製品とジャカード製品の二種類あるが、フレンチ製品は年々減少をたどっている為、ジャカード製品が主力となっている。しかしジャカード製品が増産の傾向にある為売行は不振を極めていいる。これらの原因としては、スーパーの扱高が急激に落込んでいることも大きく

影響している。全体的には生産・販売とも30%くらい昨年に比して減少しているものと推測される。この為業者としては寝装用品、ホームインテリア製品に転換しているが、これら製品はまだ開発途上のため、上記のカーテンレースの不振を補うまでに至らない。その他の細巾衣料、広巾衣料関係も昨年の不振からなかなか脱却できない。

#### ○今後の課題

今後の見通しとしても、先づ政府の財政立て直しのための増税の実施、住宅産業の不振、公共料金の値上げ、大巾賃上げの労働攻勢等を控え、当業界に於ても明るい資料が見当たらない。

当業界に於ては、これらの不振を打開すべく、中小企業団体の組織に関する法律第57条、第58条の適用を受け設備の禁止を行ったが、設備機械は年々開発が進み能力が向上している為、現有登録設備でも、最近の設備では、編立幅や回転数に於て50%のアップが見込まれる関係上、これを過剰設備とみなした場合、優に30%の設備機械の過剰が見込まれることになる。この為、今後の対応策としては編みレース機の設備共同廃棄事業が真剣に痛感される。

### (9) 桐生織物整経協同組合

#### ○状況、事業概要

56年度は自経を主力に後染物が多く機織屋さんは充分なる稼働でしたが、当業界はスラッシャーに仕事を取られて平均80%の稼働状況であった。

#### ○今後の課題

昨年末より本年にかけて先染物の受注がふえましたので、当業界は糸繰工の不足から目まぐるしい動きであり、それに大型化した整経機ではむずかしい縞及び格子等の整経をする人がなく、縞及び格子物を整経する技術者をいかに乗り越して行くかが今後の課題と思う。それは、機織屋さんが受注に対する注意とそれをおぎなう技術料の支払いに今後の大きな問題がある。



## 10 桐生意匠協同組合

### ○商品、消費者ニーズの変化について

帯の市況の悪化は、我々業者への仕事が20%減をもってはっきり現われております。又、内地着尺も厳しい状態です。しかし、洋反、インテリア、輸出等は昨年度より10%~15%の伸びを示しましたが、全体として総売上の減は業界にとって今後小巾について考えなければならない。

### ○状況、事業概要

輸出においては、前半期は好況を呈し、新しい織物新柄が中近東等、又アメリカ市場への伸びを含め、例年になく良好な市況であった。しかし10月~11月については、中近東の受注が少なくなったのと、リビアへの大量の受注がキャンセルとなり、一部輸出業者には大変な打撃を受けた。その後12月には中近東見本市の影響やアメリカへの輸出が始まり57年への明るい見通しを与えた。内地においては小巾織物が厳しい状況となり、新柄を作成するに織物業者の意欲が少なくなり、我々業界も大きな影響を受け20%の減少は今後引続くものとして厳しく受けとめている。しかし、インテリア、洋反、その他雑貨類の織物の開発もさることながら市況は良く、それなりの伸びを示している。これも一昨年の単価の引上げが多少影響していて、数字上の伸びを示している点も見逃せない。又、今後我々としても、小巾以外の織物に目を向ける必要があると思う。

### ○今後の課題

帯等内地小巾に関係する業者が比較的多い業界であるが、これからの桐生織物については、小巾にこだわることなく、その他の織物の開発や技術を習得し、インテリア、洋反、その他雑貨の仕事も出来る様に指導する必要があると感じている。組合としては、県、市に働きかけ、これらの啓もうも含め、県繊維試験場の協力を得て、新しい織物の開発を独自の方法で行う予定である。このことは内地小巾の業者への明るい事業として、又、織物業者への提案サンプルとして企画・実行し、提示できるものと考えている。又、アパレル業者との提携により、生地段階からファッション、デザインまでいたる桐生産地の独自のファッションも考えている。

## (11) 桐生刺繍商工業協同組合

### ○商品、消費者ニーズの変化について

婚礼衣裳は、ここ2,3年は結婚人口が変らず今後3,4年も横ばい状態で、ブラウス系統が上昇している為、業界全体としては変らない。

### ○状況、事業概要

ブラウス関係及び雑貨類は加工の為1年の内に波が非常に多く、シーズン以外は仕事も少なく、シーズンに入ると機械台数の倍の仕事量になるために平均すると昨年度より良い状態である。婚礼関係は結婚人口が減っている為に高級物が出荷されるので前年とやや取引金額は同じである。

### ○今後の課題

技術者養成のため業界の本拠地があれば刺繍学校等養成機関をつくり、桐生に刺繍を定着させる事と、市場開発にも重点をおき仕事の平均化を図らねばならない。

## (12) 桐生織物買継商友会

○商品、消費者は冠婚葬祭の時、必要なきものだけは一通り揃えていたが、最近は貸衣裳で間に合せる傾向が出てきた。

### ○状況、事業概要

1～2月、春物商品の補充や追加がボツボツ程度であったが、全般的に順調であった。夏物移動求評会の成果もあり、夏物商品の約定も入り見本商戦が活発であった。

3～4月 夏物商戦がいよいよスタートしたが、帯、着尺には商況が今一つ、問屋が商品リスクをもたず一部の商品以外には委託取引が多くなってきた。

5～6月 秋冬物に新規商品が見られず市況も軟弱により前売店の商品手当に意欲が見られない。追加も例年よりも少なかった。

7～8月 夏期休暇に入り商況は一服、追加品、補充商品、納め以外は閑散。

9～10月 秋冬物商品の本番に入ったが、状況は非常によくない。問屋が自己在

庫の軽減を計り、前売店からの受注商品以外は手当をしない。

11～12月 例年の状況とはまったく違い、業界全体の売上げもかなりダウンしていることが予想される。

○今後の課題

1. 消費者の指向に応じた新製品の研究と開発が特に必要と思われる。
2. 需要減退には、他産地との連携をもち、宣伝普及や運動を研究していく。
3. 生産者の後継者づくりが必要

織布工や技術者の高齢化が目立ち、若手労働者や二世が入ってこないのが、産地ぐるみの対策や研究が必要である。

(13) 群馬県綿スフ織物工業組合

○商品、消費者ニーズの変化について

中川産業は、コンピューター関連の資材に集中生産の傾向にある。包帯は価格引下げのため、綿スフ等の材料に置換になる方針に変わりつつある。

白十字は衛生材料のメーカーとして指定販売業者に販売をゆだね、順調な生産を続けている。

○状況、事業概要

中川産業は、ガラス繊維分野で操業がなされていて、綿スフ等の一般繊維は包帯のみである。

コンピューター関連資材、省エネのための自動車関連資材、建築用表面張り、クロスなどで、ほとんど工業用資材である。このうちコンピューター関係では、全国の95%のシェアを持ち益々順調、親会社である日本紡績㈱のグループとして生産資材を販売している。

白十字は、医療の進歩、国民生活の向上により、その生産品の需要は拡大しつつあるが、一方に全国的の同業者との競合も無視できない。

○今後の課題

中川産業 コンピューター時代を迎え順調に推移するが、今後コストダウンを

いかにするかである。

白十字 全国的に競合するから、更に新設備の導入、人員の削減によりコストダウンが必要である。

## 桐生市繊維振興協会会員名簿

団 体 名	代 表 者	所 在 地	電 話
桐生内地織物(協)	新井重夫	桐生市永楽町5-1	43-7171
桐生織物(協)	小池久雄	“ “	43-2511
桐生商工会議所繊維部会	木村一蔵	“ 織姫町2-5	45-1201
桐生織物商業(協)	木村市雄	“ 永楽町6-6	22-7567
桐生織物産地元売(協)	木村一蔵	“ “	22-9120
両毛輸出織物整染(工)	朝倉融	“ “	22-2775
桐生染色(協)	丸山茂	“ “	22-9661
桐生繊維製品(協)	栗原守男	“ 仲町三丁目15-20	43-5115
桐生服地(協)	小林松	“ 永楽町5-1	43-7171
桐生糸商組合	川村佐助	“ 仲町三丁目15-6	44-4171
東日本編レース(工)	黒沢岩雄	“ 永楽町6-6	22-3847
桐生撚糸(工)	坪川二郎	“ 錦町三丁目4-38	44-9431
桐生婦人子供服製造(協)	中島静雄	“ 川内町一丁目47-14	65-7143
両毛輸出スカーフ(協)	古谷恒	“ 浜松町二丁目8-20	44-1771
桐生織物整経(協)	真下晃	“ 永楽町6-6	22-9184
桐生意匠(協)	柘植洋二	“ “	22-7088
桐生紋紙(協)	高橋金五郎	“ “	22-5854
東毛ジャカード刺繍(協)	朝倉健太郎	“ 新宿三丁目7-34	43-1166
桐生刺繍商工業(協)	栗原優介	“ 永楽町6-6	22-7919
桐生金銀糸(協)	今西洋右	“ 新宿三丁目4-57	22-8539
桐生織物買継商友会	小沢圭正	“ 広沢町二丁目3125-53	54-0030
群馬県綿スフ織物(工)	松島武雄	“ 永楽町5-1	43-2511